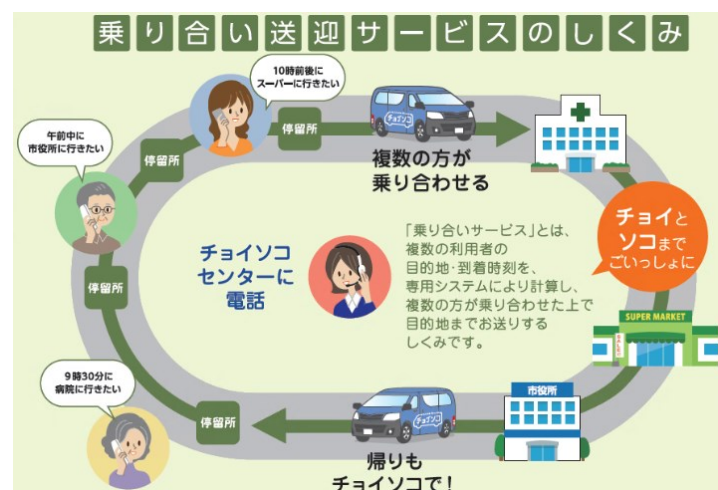
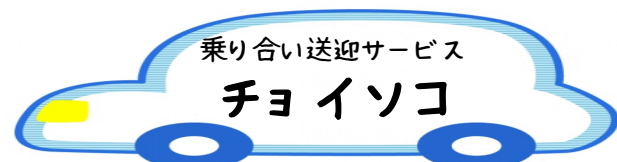




- 奥浦エリア (半泊地区を除く)
- 崎山エリア
- 富江エリア (琴石、太田、繁敷地区を除く)
- 岐宿エリア (唐船之浦、戸岐之首、大曲、打折、惣津地区を除く)



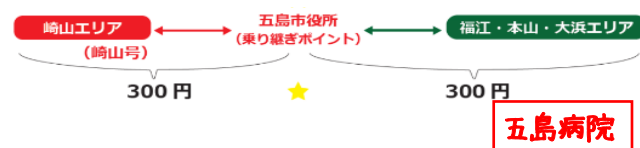
この看板どこかで見たことないですか?
この看板何のためにあるの知ってますか?

10月1日から、崎山地区でも **チョイとソコ** がスタートしました♪まず、チョイとソコって何?と思っている方もいるのでは? チョイとソコとは、複数の方が乗り合わせて希望の停留所に送り届ける電話予約制の乗り合いタクシーのことです。全てのごみボックスや、病院、スーパー、公共施設など、市内に1,100ヶ所以上の停留所があります。

その停留所に設置しているのが、上の青い色の看板です。路線バスの場合バス停まで行きますが、チョイとソコだと普段ごみを出しているごみボックスで乗り降りできます。路線バスのように時刻表があるわけではないので、自分の希望する時間に利用することができるんです!(15分前までの予約で利用できます。)

運賃は1回片道300円です。五島市全体では運行エリアは5つあり、エリアをまたぐ場合は市役所で乗り継ぐ必要があるのですが、片道300円×2回=600円になります。(小学生、障がい者手帳をお持ちの方は半額です。)

例えば、五島病院に行きたい時は、300円+300円=600円になります。利用には会員登録(無料)が必要です。申込から利用まで2週間ほどかかります。申込は出張所で受け付けています。



崎山地区人口統計表 (令和3年9月30日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	74	74	48	55	59	54	74	95	98	40	42
女	89	85	63	74	67	66	81	103	95	53	51
合計	163	159	111	129	126	120	155	198	193	93	93

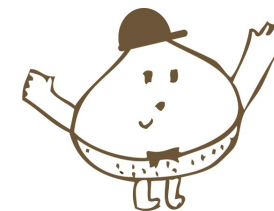
崎山地区全体 男 713名 女 827名 計 1,540名 (先月比-7名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第18号



モヤゴツ畑で収穫したカボチャで ランタン作りしました(*^^*)



10月16日(土)崎山児童クラブの子ども達と崎山まちづくり協議会で、カボチャを使ってハロウィンのランタンをつくりました。

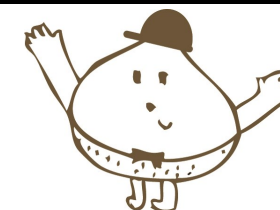
5月からモヤゴツ畑を始めて、いろんな種類のカボチャを育ててきました。菊・兜(かぶと)・ロロン・バターナッツ、8月の長雨に負けず、収穫することができました♪子ども達1人1個ずつカボチャを選び、ランタンを作りました。

自分たちで目や口の形を考えてくりぬき、いろんな表情の可愛いけど(笑)少し怖いランタンに仕上がりました(≧▽≦)

ランタンはそのままではすぐカビが生えてしまうので、約1週間、日陰の風通しの良い場所で乾燥させてから、“みはらし荘”“せいゆう荘”のおじいちゃん・おばあちゃんに、ハロウィンの雰囲気味わってもらおうと、飾ってもらいとても楽しそうでしたよ。



まち協のInstagram
ダウンロードしてみませんか?



令和3年11月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol. 3
2021.11.1 発行
発行責任者
崎山地区まちづくり協議会
代表 古里 幸一
090-2393-1990

郷里の同窓生は、幾つになっても子どもの頃の顔が目に浮かび話が弾む。当時、同窓生の船で崎山地区を海上から見学するなど微塵も考えなかった。会社人生を終え5年後の今年4月23日。その同窓生の船で、崎山地区海岸・立島・黒島・黄島・板部・赤島を遊覧見学することができた。後輩1名を連れてのさながら縮小版同窓会であったが、同窓生3人の貴重な楽しい思い出づくりとなった。

会社人生時代には長崎から毎年数回、塩津港からチャーター船で赤島・黄島に渡っていたが、生まれて初めての黒島上陸には感動しました。皆で黒島神社に参拝。また海上から眺める鑑瀬溶岩海岸と鬼岳・火の岳・箕岳・白岳の4山の絶景。まるで黒い板に緑のすり身・・・さっきゃま板蒲鉾が4個・・・これ商品化できないかなと一人で苦笑いしていました。新たな体験をさせてくれた友に感謝です！！

日本でも貴重な鬼岳単成火山群の一部であるこれら4山の噴火は、火の岳、箕岳、白岳、鬼岳の順であり、この鬼岳は1万8千年前に活動していたとある。【五島列島福江島、鬼岳火山群の噴火史 長岡信治 古山勝彦】



鑑瀬溶岩海岸を陸側の“字名”で辿ってみよう・・・上崎山町の字名では、塩津漁港左側（排水路両サイド）から「釣箱（つりばこ）」⇒「塩津道（しおつみち）」⇒「覚仙（かくせん）」⇒「馬込（まごめ）」⇒「清水（しみず）」⇒「鑑瀬（あぶみぜ）」となり、海岸線領域で一番長いのは「覚仙」（海岸をカンナガタともいう）です。鑑瀬溶岩海岸一帯では湧き水の出る場所があり、簡易水道が各家で利用できるまでは、「清水」（現在の鑑瀬東公園駐車場下）の湧水も生活水として利用していた（Vol.2 参照）。なお、五島家16代藩主 圃（かこい）公が玉之浦納の反乱にあい、黒島に一時逃れるため小舟を出したと伝えられる海岸もこの「清水」です。「鑑瀬」には底から冷たい水が湧き上がる港があり、夏場の子供らの飛



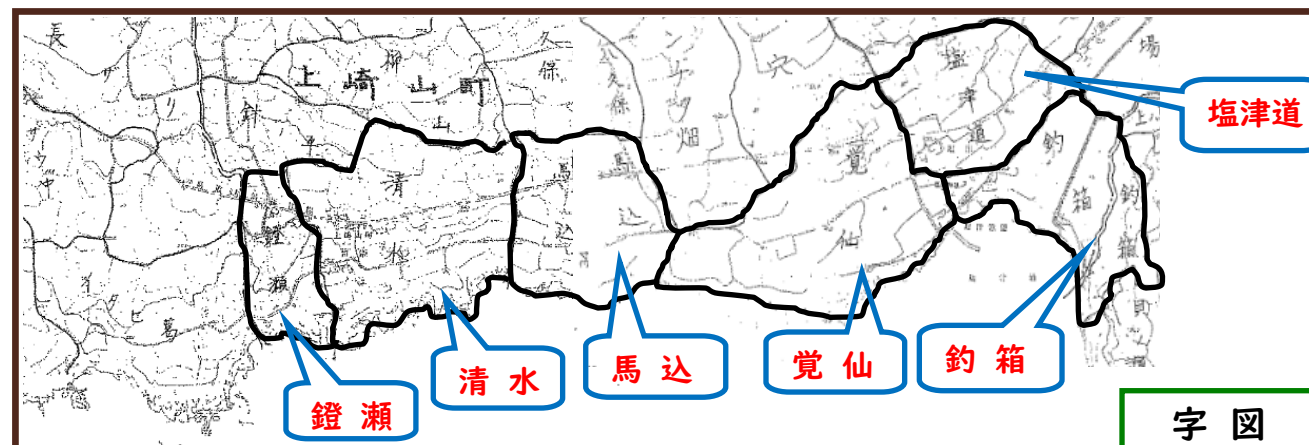
込み場所であつが、今は往時の勢いを見ることもない。
『新 た な 発 見』
「馬込」のタイドプールでミドリイシ類（サンゴ）を見ること

はあったが、海水温上昇の影響か「覚仙」の数カ所のタイドプールでミドリイシ類、キクメイシ類、ノウサンゴ類等多種の群生状況や、干潟化した場所でイソアワモチを発見しました。磯焼けが進んでいる鑑瀬溶岩海岸の一面ですが、これらは“さっきゃま”の自然を知る子供達への貴重は資源です。今、大人たちができることは、この自然を子供たちに引き継げるよう環境生息地保全することではないでしょうか。

.....

崎山地区まちづくり協議会・崎山鑑瀬自然を守る会は五島列島ジオパーク構想の推進に取り組んでいます。

社会福祉法人さゆり会は、“崎山鑑瀬自然を守る会”を応援しています。



上空から見た覚仙海岸

どうですか？上空写真と字名、一致しましたか？



仲良く散歩する2匹のイソアワモチ

《イソアワモチ》

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典より

軟体動物門腹足綱イソアワモチ科。体長5cmぐらいになり、外観はウミウシに似るが、系統的にはマイマイ類に近い有肺類の仲間である。和名は、体の外形を栗餅に見立ててつけられた。殻はない。背面はふくらみ、灰青色で大小多くの突起があり、大きい突起には背眼がある。頭には1対の触角があり、その先端に眼があるが、眼を引込めることはできない。体の後方には枝分かれした鰓突起がある。また体の後端には空気を出し入れする気孔があり、下面には平たい大きな足がある。成長に伴って脱皮をするのも軟体動物では特異な類である。岩礁に住み、海藻を食べる。夏季産卵し、水中で越冬する。

～五島ジオパーク構想とは～

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」を組み合わせ「大地の公園」という意味です。ジオパークでは、見どころとなる場所を「ジオサイト」に指定し、多くの人が将来にわたって地域の魅力を知り、利用できるよう保護を行います。その上で、ジオサイトを教育やジオツアーなどの持続可能な方法で経済活動に活かし、地域を元気にする活動や、そこに住む人たちに地域の素晴らしさを知ってもらう活動を行う取り組みです。



五島列島ジオパーク構想
GOTO Islands GEOPARK Plan